



「第二次日本経穴委員会」便り

～第44回 経穴名使用漢字・読み方の改正原案～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 かとりとしみつ
香取俊光

本年5月中に経穴部位国際標準のWHO英語版の出版が決まった。同時に日本語版を出版できるように準備をしてきたが、日本語訳の許可を始め手続きが必要なため、残念ながら日本語版は本年秋に出版となりそうである。

4月の作業部会で経穴の使用漢字や読み方の原案が決まった。秋の日本語版出版に向け、さらに検討を加えるが、今回の「便り」で中間報告としたい。本連載の第37号（2007年11月号）で小林健二委員が経穴の読み方について論じているので、そちらも参照されたい。

日本語の経穴の漢字表記について

あはき師の国家試験に直結するのが、経穴の使用漢字である。今回は3字について、正字を常用漢字に改めた。列缺→列欠、缺盆→欠盆。絲竹空→糸竹空。陽谿・解谿・天谿・後谿・太谿・侠谿→谿を溪、である。

これ以外にも、漢字表記には議論が重ねられたが、原則は1989年の“WHO 90/8579-Atar-8000 A Proposed Standard for International Acupuncture Nomenclature”を遵守することになった。また字体の違いについては、以下のことが確認された。

「郄門」の「郄」は正字ではなく俗字であり、

正字は「郤」と書くが、89年版のWHOでは俗字の「郄」を採用していることから、89年版に従ってそのまま使用。同様に、「二間」などの「間」は、正字は「閒」と表記するが「間」のままとする。

また、「申脈」などの「脈」字は正字が「脈」であり、WHOでは「脉」も略字として認めているが、日本では「脈」とし、中国簡体字の「脉」は採用しない。「肺兪」などの「兪」の字はWHOや日本の教科書では「俞」とするが、パソコンのJIS漢字が正字の「兪」を使用していることから正字のままとする。

経穴の読み方の改正

経穴の読み方は、その人の学習した年代や師匠によって個性がある。また、視覚障害の分野では点字の表記の問題や音で教育していく関係で、変更は大きな問題ともなる。決定に際しては何回かの会議を重ね、学問的な観点、歴史的な変遷からの検討、視覚障害者への影響はどうか等々を話し合った。使用漢字に比べて、経穴の読み方は、激論に続く激論で、しばし休憩を挟みながら決定されていった。主な改正点を挙げてみよう。

①同一漢字の発音統一へ

- ・「大」は「だい」…大迎（だいげい）
- ・「太」は「たい」…太溪（たいけい）
- ・「上・下」は「じょう・げ」…下巨虚（げこきょ）
- ・「前・後」は「ぜん・ご」…後溪（ごけい）
- ・「内・外」は「ない・がい」…外陵（がいりょう）
- ・「正」は「せい」…正營（せいえい）
- ・「溜」は「りゅう」…温溜（おんりゅう）
- ・「神」は「しん」…本神（ほんしん）
- ・「封」は「ほう」、ただし、撥音「ん」の後に
来る「は行」音は半濁音（P）で読む…神封（しんぼう）
- ・「巨」は「こ」…大巨（だいき）

②音韻による訂正

「僕参」（ぼくさん）、「顛膠」（かんりょう）、
「食竇」（しょくとう）

③促音の「っ」を入れる

「列欠」（れっけつ）、「腹結」（ふっけつ）、
「膝関」（しっかん）、「秩辺」（ちっぺん）、「率
谷」（そっこく）、「絡却」（らっきゃく）、「魄戸」（はっこ）、
「膈関」（かっかん）、「曲骨」（きよ
っこつ）、「束骨」（そっこつ）

④身体の部位が付く経穴の読み方

以下の経穴は、部位と名前の中に「の」を入
れない。腰陽関（こしようにん）、腹通谷（は
らつうこく）、足通谷（あしつうこく）、頭臨泣
（あたまりんきゅう）、足臨泣（あしりんきゅう）、
手三里（てさんり）・足三里（あしさんり）、手
五里（てごり）・足五里（あしごり）

⑤個々に読み方の違いがあったものの確認

太乙（たいいつ）、彘中（いくちゅう）、瞳子
膠（どうしりょう）、地五会（ちごえ）

全般的な注意点

今回の委員会の変更ではないが、これまで周

知されていないものも紹介しておこう。

①1989年のジュネーブ合意がなされたがあまり意識されていないもの

太鐘→太鍾、懸鐘→懸鍾、禾膠→口禾膠、和
膠→耳和膠。

ただし、口禾膠・耳和膠は、中国では同じ発
音になるので部位が付加され、国際標準として
は経穴名にも付加されているが、日本語版の漢
字表記では「禾膠・和膠」のままの表記とした。

②今回は読み方として採択しなかったが、今後の課題となった読み方

「脛穴（しゅけつ）」…経穴名ではなく、正
穴・奇穴、阿是穴の総称である。音韻学の観点
からは「臂臑」は「ひのう」、「肺俞」などの
「俞」は「しゅ」と読むべきだが、江戸時代な
どの多くの古典に間違っ使用されてそのまま
になっており、現在これをすべて「しゅ」に直
すのは影響が大きいとの意見が出された。日本
語版には読み方の間違いを明記し、広報活動
を行いつつ、その流布を待つことにした。

今後の課題

日本語の使用漢字や読み方は、一応の結論を
出した。多くの議論の中で、当たり前だと思っ
て使われてきた漢字や呼び慣れた経穴名も、音
韻学や歴史的な変遷などを見ていくと、多くの
間違いがあることに気づかされた。

今後は、訂正したものが、教科書にどれくら
い反映されるのか、国際標準としてコード表記
がどのくらい周知されるのか。部位の標準化と
効能の比較研究など課題も多い。作業部会も、
あと数年間でこれまでの検討資料の整理や記録
の保存、経穴のデータベース化等の目標に向か
って第二次日本経穴委員会としての役割を終え
ようとしている。